

気仙沼市の海洋教育2021

# 実践記録集



宮城県気仙沼市教育委員会

# 目 次

ページ

◆	あいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳	1
◆	気仙沼市における海洋教育の推進	2
◇	資料1 気仙沼市海洋教育とその根拠・参照先の整理	12
◇	資料2 「気仙沼・未来創造力」とらえ図	13
◇	資料3 海洋教育パイオニアスクールの学習活動一覧	14
◇	資料4 「海洋教育研究会」「海洋教育学会設立準備大会」における発表資料	17
◆	気仙沼市の海洋教育特例校の実践事例	23
◇	鹿折小学校（2年目）	24
◇	唐桑小学校（1年目）	95
◆	気仙沼市の海洋教育パイオニアスクールの実践事例	135
◇	唐桑幼稚園	136
◇	松園幼稚園	138
◇	小泉幼稚園	140
◇	大谷幼稚園	142
◇	気仙沼小学校	144
◇	松岩小学校	156
◇	階上小学校	160
◇	大島小学校	162
◇	面瀬小学校	166
◇	中井小学校	170
◇	小泉小学校	176
◇	大谷小学校	182
◇	鹿折中学校	186
◇	階上中学校	190
◇	大島中学校	194
◇	面瀬中学校	198
◇	唐桑中学校	204
◇	大谷中学校	206
◆	第9回海洋教育こどもサミット in 東北（オンライン大会）	212
◇	開催要項	212
◇	「海のはた」ワークショップ	214
◆	気仙沼市教育研究員（海洋教育領域）の実践	217
◇	松岩小学校 教諭 三浦 大樹（2年目）	223
◇	大谷小学校 教諭 佐藤 祐司（1年目）	235

## 気仙沼市「海洋教育実践記録集2021」の発行によせて



気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳

気仙沼市は、2011年に発生した東日本大震災において、人知を超える海の力の大きさを経験しました。震災から立ち上がる私たちは、復興のキャッチフレーズ「海と生きる」を大切にしてきました。本市においては、この「海と生きる」を心に留め、新たなまちづくりを進めております。

学校教育においては、震災後数年は近づくことの叶わなかった海での活動の再開とともに、海の素晴らしさや暮らしとのかかわりを、体験を通して感じることができるようになりました。このきっかけとなったのが、「海洋教育」との出会いでした。本市においては、平成26年度より、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター（旧 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）との連携協定により、田中智志センター長をはじめ、同センターの先生方の御指導をいただき、海洋教育に取り組んでまいりました。

また、日本財団、笹川平和財団、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの「海洋教育パイオニアスクールプログラム」に参加し、現在は地域展開部門として3か年の取組を終えようとしております。パイオニアスクールを幼稚園4園、小学校10校、中学校6校に拡充するとともに、海洋教育に関する教育課程特例校として鹿折小学校、唐桑小学校の2校が、特設領域「海と生きる探究活動」を中心とした学習を展開し市内の取組を牽引しております。

コロナ禍においても、学校は様々な工夫により海と親しむ活動や海洋教育に係る外部人材から学ぶ活動、オンラインにより国内外と結び、学びを広げ、深める活動を取り入れてまいりました。海洋に関する多様な体験活動をきっかけとして、「海と生きる」とはどういうことか、学年の段階に応じて考え行動する児童生徒の姿が見られました。

また、今年度は、気仙沼市海洋教育推進委員会を中心として、本市海洋教育で育みたい資質能力「海洋リテラシー for 気仙沼」を策定いたしました。さらに、12月には、これまで積み上げてきた実践を「海洋リテラシー」の視点から整理した海洋教育副読本「『海と生きる』を学ぶガイドブック」が完成いたしました。次年度からはこの副読本を活用して、パイオニアスクールのみならず市内全小中学校において、教育課程全体を通じて「海洋リテラシー for 気仙沼」を意識した教育活動を展開してまいります。

気仙沼市「海洋教育実践記録集2021」には、本年度の各学校の実践の紹介に加え、各校での海洋教育の位置付けを示した全体計画、海洋教育デザインシート、指導案なども掲載しました。気仙沼市の海洋教育の歩みの記録とともに、海洋教育の価値を各方面に伝え、実践を広げ、深めるための資料として充実した内容となっています。

貴重な事例を提供いただいた各園・各校の指導者並びに学習を支えていただいているすべての関係者の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後さらに気仙沼市の海洋教育が発展していくことを期待しております。